

令和8年10月2日

乳製品需給等情報交換会議における御意見

ホクレン農業協同組合連合会

- 北海道の生乳生産動向は、今夏においては比較的猛暑とはならなかったことから、影響が少なく、個体乳量の増加もあり直近では前年を上回る推移での生産となっており、この推移が継続すると予測される。
- また、成分値についても、FATは4.0%台の推移となっており、経験上、これまで夏場は4.0%を下回っており、4.0%台をキープしているのは初めての事ではないかと思っている。生産現場での乳脂肪価値の向上に取り組んできた成果も背景にあると思っている。
- 生乳需給においては、各種物価高の影響や今夏の長雨の影響などによる飲用牛乳の需要に停滞感があり、6月開催時の本会議の時とは、乳製品の需給において環境が変わってきている。
- Jミルクの試算によれば、令和8年度末のバターの在庫水準は4万ト超となっており、1月段階と比較すると1万ト以上増加する見通しとなっている。
- 主な要因としては、バター生産量が増加しており、これまで不足感のあったバターについても、状況が変わってきている。
- このことから、現時点で本年度の輸入枠数量は確認をしてきた中での運用となっておりますが、今後の輸入枠の設定、運用にあたっては、これらの在庫水準や需給を見た中で適切な対応をお願いしたい。
- また、脱脂粉乳については、在庫削減に向けて、業界として対策の上乗せを行った中で対応を進めておりますが、バターと同様に飲用需給の影響もあり、更に在庫を積み増す見通しとなっています。国におかれましても引き続きのご対応をお願いしたい。
- 乳製品を含めた今後の需給動向が厳しい動向にありますが、生乳の安定供給と完全販売に向けて需要の拡大や需給への対応について、国、業界を合わせた取り組みを引き続きお願いしたい。

一般社団法人中央酪農会議

- 需給環境についてはすでに説明のあったとおりであり、輸入枠については提案のとおり進めていただきたい。
- 生乳生産は、全国的に家畜改良、暑熱対策に取り組んで来た結果、予測を上回って推移しており、来年も今の傾向は続くと思われる。
- 脱脂粉乳在庫量が増加しており、業界においては、需要拡大対策や在庫削減対策

に取り組んでおり、引き続きの農水省等からの支援・ご指導をお願い致します。

- さらに、現在の需給環境は、自然体では今後も継続する可能性が高く、今後の輸入枠の運用及び次年度の輸入枠の設定にあっては、こうした国内の需給環境にご配慮いただきますよう併せてお願い致します。

一般社団法人 Jmilk

- 今年の8月は、東日本における猛暑日数の少なさや、9月上旬の大雨の影響等による記録的な日照により、飲用牛乳の消費量が下振れ、最需要期である9月に、生乳の加工向け処理が増加するという異例の需給緩和が生じました。さらに今年度下半期におきましても、個体乳量の上振れによる生乳生産量の増加が見込まれる一方、牛乳類の消費低迷の継続が予想されています。この結果、年末年始や年度末などの飲用不需要期における脱脂粉乳・バター等向け処理乳量は、過去10年間で最も大きな数量となる見込みです。乳製品工場やドライバーの人手不足が深刻化する中、最悪の場合には加工工場の受け入れ・処理許容量を超過し、処理不可能乳が発生しかねない極めて緊迫した状況にあります。
- このような危機的状況を回避するためには、全国の酪農乳業関係者が一丸となり、地域の実情に応じた早期乾乳や全乳哺育などの「入口対策」を機動的に実施できるよう準備を進めることが極めて重要です。同時に、乳製品工場等の稼働率最大化や市乳工場における貯乳量の最大化を図るとともに、業界一体となった国産牛乳乳製品の需要拡大などの「出口対策」を早急かつ強力に進めていく必要があります。
- さらに、今後の生乳需給の安定化に向けては、脱脂粉乳の在庫増加への対応が不可欠ですが、バターの状況にも注視する必要があります。脱脂粉乳の需給は、出回りの長期的な低迷が続き、供給が需要を大きく上回る需給ギャップが拡大しており、期末在庫量の大幅な積み増しが懸念されております。また、バターについても在庫量が増加傾向で推移しています。乳製品の過剰在庫の放置は、酪農経営における生産抑制や乳価の下落、ひいては生産基盤の毀損といった事態を招く恐れがあり、乳業者にとっても生乳の安定調達が困難となるなど、酪農乳業産業全体に深刻な影響を及ぼしかねません。このような危機的状況を回避すべく、全国の酪農乳業関係者は「入口・出口対策」に加え、追加的な拠出による対象数量の増加を含めた「在庫削減対策」を適切に組み合わせ、脱脂粉乳等の構造的・長期的な不均衡の解消に向け、総力を挙げて取り組むことが危急の課題となっております。
- つきましては、こうした極めて厳しい足元の需給緩和や深刻な乳製品の過剰在庫の動向を十分に踏まえ、今後の国家貿易等におかれましては、国内の生産基盤および需給環境へさらなる悪影響を及ぼすことのないよう、現下の状況を的確に勘案した適正な乳製品の輸入判断を行っていただきますよう、お願い申し上げます。

一般社団法人日本乳業協会

(生乳生産)

- 生乳需給については、他の委員が言った通りである。
- この夏は雨が多く、昨年と比べれば気温が低く、乳牛にとっては過ごしやすい環境となったため、想定を上回る生乳生産となった。

(バター)

- バターについては、昨年の夏過ぎ頃から国際価格が急速に低下しており、堅調であった国産バターの需要も、一部が価格の安い米国産品等に置き換えられつつあると推察される。
- 他方、この夏の気温が低めに推移したため、生乳生産は想定を超えて好調である一方、飲用需要は、価格引き上げの影響が一巡しているにもかかわらず、逆に低調に推移している。
- この結果、バターの生産は前年度を上回ると見込まれることから、在庫は昨年度に引き続き相当程度積み上がるものと見込まれる。

(脱脂粉乳)

- 脱脂粉乳については、最大の需要先である発酵乳の生産は、2024 年度末から継続的に講じられている消費拡大対策の効果もあり、価格改定がなされているにもかかわらず、比較的好調に推移している。
- しかしながら、この夏の気温が低めに推移したこともあり、これまで好調であったアイスクリームをはじめ、その他の需要も振るわないことから、脱脂粉乳の需要は低調に推移している。
- 他方、バターと同様の事情により、脱脂粉乳の生産は前年度を上回ると見込まれることから、需給は依然として緩和傾向が続くと見込まれる。

(まとめ)

- 以上のような需給見通しを踏まえ、国家貿易によるバター及び脱脂粉乳のカレント・アクセス輸入については、消極的な立場から、変更する必要はないと考える。
- ただし、これまでは脱脂粉乳の需給事情を注視していればよかったが、バターの在庫も徐々に積み上がりつつあることを踏まえれば、脱脂粉乳・バター双方の需給の推移を見極め、需給への影響を最小限にとどめるような柔軟な対応をお願いしたい。

卸売業者【業務用】

(脱脂粉乳)

- 脱脂粉乳は、昨年以上に需給の緩和感が高まっており、流通量拡大を目的として

メーカーおよび流通各社から汎用用途への活用提案が増加していますが、在庫減少には至っていません。

- 主要需要先の一つである乳酸菌飲料市場の低迷もあり、一部では在庫水準が高止まりしている状況が見られます。
- その影響から、市場によっては価格が軟調に推移するケースも見受けられます。

（バター）

- 国産バターの需給については、年度による多少の変動はあるものの、全体としては従来の供給環境を維持しています。
- 加えて、一部では需給に余裕が生じており、バラ品・プリント品ともにスポット対応が可能となるなど、供給面はやや緩和傾向にあります。
- 一方で、生乳価格に大きな変動は見られないものの、物流費や労務費をはじめとする各種コストの上昇を背景に製品価格への転嫁が進んでいます。また、価格上昇に伴う使用量の変化や消費者の購買動向については、今後も継続的に注視していく必要があります。

一般社団法人全国スーパーマーケット協会

- 2026 年 1～8 月にかけての乳製品カテゴリーは、ヨーグルトが比較的堅調に推移する一方、牛乳は価格改定や競合との価格差の影響を受け、販売数量や買上点数の弱さを指摘するコメントが継続した。チーズやバターなどは月や企業によって動きに差がみられた。

（牛乳）

- 5～6 月は前年割れと前年超の双方の回答がみられ、企業による差が大きかった。
- 7～8 月は気温や天候による需要の違いもみられたものの、競合との価格差や値上げ後の数量減少を指摘する声が継続した。
- 8 月には牛乳が前年を上回った企業がある一方、前年割れとなった企業もあり、売上金額と販売数量の動きにはばらつきがみられた。

（ヨーグルト）

- 4～5 月は気温上昇とともにプレーンタイプなどが好調に推移し、6～7 月も健康需要を背景に前年を上回る回答が多かった。
- 8 月は、前年より気温が低かった地域や時期もあり、乳飲料など一部商品では伸び悩みがみられたものの、ヨーグルトについては健康需要や機能性商品の動きを背景に好調とのコメントが引き続き多かった。

(チーズ／バター)

- 5月以降は、チーズやバターについて企業や商品によって動きに差がみられ、6月や8月には好調を指摘する企業もみられた。
- 加工乳、乳飲料、乳酸菌飲料についても企業や商品による差があり、特に夏場は気温や天候の影響も加わって、乳製品カテゴリー内での商品差がより明確になった。

協同組合全日本洋菓子工業会

- 本年6月以降のバター全体の需給状況については、国内産バターのみを使用する一部の事業者において依然として今後の調達に不安を残しているものの、総じて緩和傾向が進んでいるものと受け止めている。また、6月から改善していると感じている。
- 実際、仕入先からの供給制限的な対応はほとんど聞かれなくなり、むしろ供給量が以前の水準に回復した、増量に応じてもらえた、あるいは必要な分だけを都度発注できるようになった、新たな供給ルートを確保しやすくなったといった好転の声が現場から上がるようになった。
- しかしながら、この緩和傾向の背景には、これまでの不足事態に備えて企業側が商品数や製造量を調整し、使用量を削減するといった自助努力を続けてきた側面もある。生産の面で状況変化が起きていることは承知しているが、需給緩和の根本的な要因が未だ明確になっていないことから、現象面のみを捉えて今後の見通しを楽観視することは難しいものと考えている。
- ついては、需要側の切実な声として、需給のさらなる安定化はもとより、現在最大の懸念事項となっているバター価格の高止まりや上昇傾向への改善に向けた取り組みを強く求めたい。特に、価格安定にも資するもので、市場の供給量を適切に確保するための措置として、輸入バター枠の拡大による柔軟な供給体制の構築について、引き続き前向きにご検討いただくことを要望する。

一般社団法人日本洋菓子協会連合会

- 全体的にみると大きな混乱や変化はみられていないが、当協会の会員である零細企業、専門店では国産バターを使用しており、ここ数年は、前年度実績以上は供給できないと制限を受けている店が多かったが、最近はそういうことはなく必要な量を確保できている。
- 好ましい状況ではないが、洋菓子業界では、慢性的な人手不足により生産量の伸びがみられず、また各店舗での価格値上げが進んだことにより、売上に陰りが出る状況が続く、バター使用量の減少がバター不足にならない要因となっているのではないかと考えられる。そのような背景から、洋菓子業界の事情を原因としてこの

先急激な乳製品不足や混乱が生じるというようなことは想定しにくく、こうした状態は暫く続くのではないかと考えられる。

- 脱脂粉乳の在庫が多い状況が続いているため、当連合会でも原材料で脱脂粉乳を消費するために、脱脂粉乳を使ったレシピのコンクールを開催するなど、いろいろ取り組んでいるが、中々難しい。そのほか、脱脂粉乳の利用について雑誌に取り上げるなど、業界で取り組んでいる。
- 秋以降の業界の繁忙期を前に、この先もバターの供給に混乱、心配がないということであれば、不安は抱えていない。足りないより余裕がある方が業界としては安心できる。

全国菓子工業組合連合会

- バター在庫が十分にあるという認識はできました。業界から足りないという声はないので、バターの供給に不安はありません。課題は価格です。会員へのアンケート結果では、8割の人が原材料の高騰を問題としています。
- 菓子製造業においては、乳製品をはじめとする原材料価格や人件費、物流費等の上昇が続いており、中小菓子製造事業者の経営を引き続き圧迫しています。特に、国産バターや生クリームを製品の特色として使用している事業者も多く、その価格の安定及び安定供給は、菓子製造事業者の経営にとって重要な課題となっています。
- バターの需給については、年間を通じて一定の在庫水準が確保される見通しであると認識していますが、需要期における需給変動や生産動向によっては、業務用需要を中心に供給がタイトになる可能性もあります。このため、引き続き需給動向を注視するとともに、需給が引き締まる局面においても機動的に対応できる体制の確保をお願いします。
- 今年度実施されたバターのSBS入札では、輸入価格（買入価格）の低下がみられる一方、マークアップの拡大により、国内での売渡価格の低下は限定的となっています（別添参照）。輸入価格の低下が国内価格に十分に反映されていない状況にあることから、マークアップの拡大を抑制し、輸入価格の低下によるメリットが実需者や消費者にも還元されるよう、制度の適切な運用をお願いします。
- 会員に輸入バターを使っているか聞いてところ、ほとんど使っていないと回答がありました。輸入バターが使えない要因がなにかは断定できませんが、形態が大きすぎることが要因の一つです。10キロ単位で配送してくれる業者がおらず、小規模な企業に対応できる流通体制が整っていないと感じます。
- 小規模企業者向けSBS制度については、毎回1業者しか応札していません。我々も制度を勉強中ではあるが、小規模企業者にとっては利用しにくい制度となっていることから、制度の利用実態や利用しにくい要因を改めて検証し、多くの小規模企業者が利用しやすい制度となるよう、入札数量枠の設定、契約・配送条件の

見直し、随意契約による定価販売なども含め、制度の改善をお願いします。

- 当連合会傘下の中小菓子製造事業者には、国産バターや生クリームの使用を製品の特徴としているものも多く、輸入バターでは代替できない需要も存在します。特にお土産屋を中心に国産バターを欲しいという声があり、どんなに安くでも輸入バターに置き換えられません。国産バターについては、単に年間を通じた在庫水準を確保するだけでなく、需要期においても安定的に供給されるよう、生産基盤の維持・強化及び安定供給に向けた取組をお願いします。

一般社団法人全国消費者団体連絡会

- 消費者としては、牛乳やバターに不足を感じることはない。輸入枠の計画に異存はありません。
- 現在、長引く物価高の中であらゆる食品の値上げが相次ぎ、消費者の家計管理は厳しさを増しています。その一方で、単なる節約にとどまらず、健康維持や生活の充実のために「高くても体に良いものを選ぶ」という高付加価値食品へのニーズも見られます。
- 今後は、家計に優しい日常使いの工夫（少量・適量サイズ、規格外サイズ）を進めると同時に、さらなる美味しさの追求や、栄養面を強化したプレミアムな商品等、生活様式の変化に合わせた多様な商品の提案を望みます。
- また、これからの季節（秋冬）に合わせた実践的な消費拡大施策も重要です。最近各地で発生している気象災害、あるいは寒暖差による心身へのストレスに対し、精神の安定を助ける「トリプトファン」の効果や、冬に向けた温活（ホットミルクなど）の価値を、科学的なデータに基づいて、丁寧に発信していくことは有効と思います。健康を保つための必須栄養素として、ぜひ乳製品の価値を、これまで以上に消費者へ発信してください。
- 同様に冬場は学校給食の場においても、乳製品のおいしさや魅力を、温かいメニューで子どもたちに伝える機会が作りやすいのではないかと思います。クリームシチューやカルボナーラ、ミルク鍋、あすか鍋など、牛乳を活用したメニューを「食育の教材」としても活用することで、「成長期に欠かせない乳製品の価値」が、学校から家庭に伝播されることを期待しています。
- また、このような牛乳を活用したメニュー提案は、年代を問わず、「買った牛乳を無駄なく使い切ろう」という食品ロス削減と結び付けた取組みとしても有意義であると考えます。
- 体験型イベントとしては、この秋にも「牛乳でスマイルプロジェクト」を掲げたミルクフェスの開催が豊洲などで予定されていますが、まだ広く知られていない様子です。他業種と連携しての体験型イベントは、広い年代層にアピールでき、SNSの発信からも話題を集められます。こうしたアプローチで、新たなファン層拡大の鍵となることを期待します。

- これからの寒い時期や、学校給食のない冬休み期間を見据え、料理やお菓子への積極的な活用を呼びかけるとともに、生産現場の持続可能性に向けた架け橋となるよう、発信に努めてまいりたいと思います。消費者の理解と共感が進むことで、生産現場と一体となった需給の安定が図られることを期待します。

卸売業者【家庭用】

- 市販用バターは、引続き、売場におけるバターの欠品は無く、供給は安定している。
- 市場においては、2025年3月、7月に続き、2026年9月にも主要メーカー各社の価格改定があったため、市販用バターの動向は、引き続き2026年度も需要拡大の要素は乏しい状況と捉えている。
- 弊社の市販用バターの供給（納品率）に関しても大きな影響はない状況であり、前年7月の価格改定の際には一時的に需要が落ち込んだものの、現時点では前年並みに推移している状況である。2026年9月の価格改定後の動向は注視していきたい。
- また、主要メーカー各社の市販用バターの在庫状況は、適正であるという声が多いが、生乳生産量や天候の影響などについて不安視する声も聞こえている。
- 現時点で供給体制は概ね問題ないと判断しているが、欠品することの無いようにメーカー各社と一層の連携をお願いしている。
- 引続き、生乳生産量や、天候、年末の需要状況などの動向を注視しながら、需給調整の一翼を担うべく尽力していく。

一般社団法人日本パン工業会

（バター）

- 外国産については、生産増や乳脂肪を敬遠する動き等から、需給は軟調であり、価格も下落傾向にある。
- こうした中で、国内産については、大規模事業者では、量確保の観点もあり、使用増を躊躇するところがある。
- また、これまでコンビニを中心にあったバター使用による製品訴求は、コスト増の価格転嫁が難しいこと等から需要はそれほど強い訳ではない状況にある。
- いずれにしても、現状では輸入枠について特に要望はなく、引き続き全体的な安定供給をお願いしたい。

（脱脂粉乳）

- 外国産の価格が上昇し、国内産の価格優位性が強まっている。
- 事業者によっては、外国産調製品から国内産への切替えを検討しているところ

もある。

- いずれにしても、現状では輸入枠について特に要望はなく、引き続き全体的な安定供給をお願いしたい。

(以上)